学校だより 「花里の子」

令和８年度　第１３号（令和８年１０月７日）　　伊丹市立花里小学校長　小木曽　笑子

令和８年度全国学力・学習状況調査、CRT調査の結果を踏まえ「花里の子学力向上プラン」を策定し、授業改善に取り組みます

６年生を対象に、４月に実施された「全国学力・学習状況調査」では、国語、算数の学力調査と学習の基盤となる意欲・習慣等の質問紙調査が行われました。また、2～5年生は算数のCRT調査を実施しました。その結果を分析し、今後の学力向上に向けての取組を裏面の「花里の子学力向上プラン」としてまとめました。なお、この調査で測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校での教育活動における一つの側面です。

1　CRTの結果について

【2年生】
観点別の正答率はほぼ全国平均でした。領域別では、「数の構成と表し方」や「時刻の読み方」が全国平均を上回る一方で、絵や図を用いて数量を表したり、考えたりする学習に課題が見られました。

【3年生】
観点別の正答率は全国平均を上回りました。領域別では全体的に全国平均並みの結果でしたが、「数の構成と表し方」に改善の余地が見られました。

【4年生】
観点別の正答率は全国平均をやや下回りました。領域別では、「数と計算」「図形」は昨年度と同程度の正答率でしたが、「測定・データの活用」に課題が見られました。

【5年生】
観点別の正答率は全国平均を下回り、特に「思考・判断・表現」の観点に課題が見られました。領域別では、「数と計算」は昨年度と同程度でしたが、「図形」や「測定・データの活用」に課題が見られました。

学年が上がるにつれて全国平均との差が広がる傾向が見られ、学習内容の積み重ねに課題があることが分かりました。特に3･4年生で学習する内容は、その後の学習の土台となるため、確実な定着を図ることが重要です。

2　学力調査の結果について

【国語】
・平均正答率は全国平均とほぼ同程度でした。
・「国語の勉強が好き」に肯定的な回答46.5%
・学習指導要領の内容別では、「話すこと・聞くこと」で全国平均を上回りました。一方で、「情報の扱いに関する事項」に改善の余地が見られました。
・「情報や資料を活用して自分の考えを書く」「自分の経験と結び付けて書く」「相手に伝わるように書く」といった〔書くこと〕の力に課題が見られました。

【算数】
・平均正答率は全国平均を下回りました。
・「算数の勉強が好き」に肯定的な回答52.1%
・領域別では、「測定」に、評価の観点別では、「知識・技能」の定着に課題が見られました。
・特に、「割合と比較量から基準量を求める問題」や「複数の情報から条件に合う時間を求める問題」で正答率が低い傾向にありました。

国語・算数の両教科に共通して、図や表、グラフなどから必要な情報を読み取り、根拠をもとに考えをまとめる力に課題が見られました。また、記述式問題の無答率も全国平均を上回っており、改善に向けての取組が必要となっています。

3　学習状況調査に関する結果について

右の表は、学習状況調査の結果の中から、ご家庭と連携して取り組みたい項目について、本校児童の回答を経年比較したものです。数値は「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と回答した児童の割合を示しています。

質問	R8	R7	R6	R5	R4
朝食を毎日食べている	98.6%	91.8%	90.5%	88.4%	90.9%
毎日同じくらいの時刻に寝る	83.1%	82.0%	69.8%	79.1%	70.9%
毎日同じくらいの時刻に起きる	95.8%	88.6%	84.9%	90.7%	87.2%
平日、家で１時間以上学習する	42.3%	60.7%	35.8%	58.1%	50.9%
平日、３０分以上読書する	29.6%	37.7%	46.5%	32.7%	45.7%

調査結果から、「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る･起きる」などの基本的な生活習慣については、全国平均を上回る結果となりました。これは、家庭と学校が連携して取り組んでいる「生活チェック」の成果の一つであると考えています。一方で、「平日に学習以外でスマートフォン･パソコン･ゲーム等を2時間以上利用する」と回答した児童の割合は60.5％でした。また、「平日に家で1時間以上学習する」「平日に30分以上読書をする」と回答した児童の割合は十分とは言えず、デジタル機器の利用時間を含め、子どもたちが自分の1日の時間の使い方を見直し、自己調整する力を育むことが喫緊の課題です。

各調査の結果から、本校児童のよさと課題が見えてきました。学校では、これらの結果を真摯に受け止め、授業改善や学習習慣の定着に取り組んでまいります。また、子どもたちの健やかな成長のためには、学校と家庭が同じ方向を向いて支えていくことが大切です。今後とも「ONE HANASATOの協育」にご理解とご協力をお願いいたします。

花里の子学力向上プラン2026

学校・家庭・地域によるONE HANASATOの協育　は(⑧)な(⑦)の取組

【学力の土台づくり】
①生活チェック
②きくきくトレーニング
③音読計算
④ユニバーサルデザインの学習環境整備
⑤個別課題に応じたカラフルな学習の場
⑥自主学習できる場の提供
⑦松崎中学校、伊丹西高等学校との連携
⑧人間関係力の向上

【楽しい学びに向けて】
①対話を大切にした授業
②自己選択の場の設定
③子どもと作る学習計画
④考えを表現する学習活動
⑤めあてとふり返り
⑥体験学習・出前授業の活用
⑦学習支援ボランティアの活用



【各教科での取組】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	・朝学習できくトレを取り入れ、聴く力の育成を図る。 ・読み聞かせや本の紹介等によって読書意欲を高めるとともに、読書時間も確保する。 ・授業を「音読→書く→読む」のサイクルでパターン化し、学習への見通しをもたせる。 ・劇化や成果物の作成等、言語活動の充実を図る。	・朝学習で「きくトレ」を取り入れ、聴く力の育成を図る。 ・読み聞かせや本紹介等によって読書意欲を高めるとともに、読書時間も確保する。 ・デジタルドリルやプリントを活用して、漢字の反復練習を行う。 ・劇化や成果物の作成等、言語活動の充実を図り、読む力を高める。	・朝学習で「きくトレ」を取り入れ、聴く力の育成を図る。 ・朝読等、読書時間の確保に努める。 ・日常的に国語辞典を活用し、理解語彙を増やす。 ・多様な方法で漢字の練習を行い、取り組む機会を増やす。 ・自分の意見や考えをもち、対話的な学習を通して、言語化・文章化の技能向上につなげる。	・朝学習で「きくトレ」を取り入れ、聴く力の育成を図る。 ・朝読等、読書時間の確保に努める。 ・語義や使い方の確認を通して、理解語彙の増加を図る。 ・既習漢字の反復練習を行い、漢字の定着を図る。 ・自分の意見や考えを文章にしたり話したりする機会を増やす。	・朝学習で「きくトレ」を取り入れ、聴く力の育成を図る。 ・朝読、家読等で読書時間の確保に努める。 ・ゴールを意識して学習計画を立て、見通しをもって学習できるようにする。 ・字数制限や時間制限等、条件に合わせて、自分の思いを書く学習の機会を確保する。 ・指定した言葉を使った短文づくりを通して、使用語彙の増加を図る。	・朝学習で「きくトレ」を取り入れ、聴く力の育成を図る。 ・朝読、家読等で読書時間の確保に努める。 ・主語述語の関係を捉える短文づくりや校正に取り組む機会を確保し、文章を書く力を伸ばす。 ・ゴールを意識して学習計画を立て、見とおしをもって学習できるようにする。 ・読むことの学習において、書き込み等の操作を取り入れるなどして、読む活動を能動的にする。
算数	・朝学習や家庭学習に、音読計算を取り入れ、繰り上がり、繰り下がりの計算の定着を図る。 ・具体物を使った操作を取り入れ、数や量、形についての概念への理解を深める。	・朝学習や家庭学習、授業の冒頭等に、音読計算を取り入れ、3桁までの足し算、引き算の定着を図る。 ・具体物の量の測定や比較等の活動を通して、量の概念を育む。 ・九九道場などを活用し、九九の定着を図る。	・朝学習や家庭学習、授業の冒頭に、音読計算を取り入れ、四則計算の技能の定着を図る。 ・授業の冒頭に、前時の内容等、既習内容の確認を行う。 ・問題文を絵や図を使って表現したり、友だちと相談したりすることで、解決の方法を見つけられるようにする。	・朝学習や家庭学習、授業の冒頭に、音読計算を取り入れ、四則計算の技能の定着を図る。 ・四則計算の反復練習や既習事項の学習プリントを適宜取り入れて、基礎的な計算技能の底上げを図る。 ・問題文を正確に読む習慣をつけ、題意を捉えたり、解決の方法を見つける力を高められるようにする。	・朝学習や家庭学習、授業の冒頭に、音読計算を取り入れ、四則計算や分数、小数の計算技能の定着を図る。 ・実物やICT機器の操作を含んだ図形の学習活動(立体、平面図形)を取り入れ、図形に対する理解を深められるようにする。 ・問題場面を捉え、課題の整理や方略について考える機会を確保する。	・朝学習や家庭学習、授業の冒頭に、音読計算を取り入れ、四則計算や分数、小数の計算技能の定着を図る。 ・問題場面を捉え、課題の整理や方略について考える機会を確保する。 ・教材や例題を身近な事象とリンクさせるなど、学びが生活や社会とつながっていることを実感できるような授業をすすめる。
理科(生活)	・五感(視・聴・嗅・味・触)を使って観察し、みつけっこカードに絵や文をかく活動を取り入れる。 ・タブレットのカメラ→アルバムの機能を用いて、日記や観察記録に写真を貼り付ける技能を身につける。 ・一日入学等において、自分の役割を果たすために必要な準備を考え、実行する機会をつくる。 ・様々な学習において、相手意識を持って計画を立てたり、実行したりする。	・五感(視・聴・嗅・味・触)を使って観察し、観察カードに絵や文を詳しく書く活動を取り入れる。 ・図鑑や本を使って調べたり、自分の言葉でまとめたりする活動を取り入れる。 ・結果を予想したり、理由を考えたりする活動を取り入れ、見通しをもって学習をすすめられるようにする。 ・学んだことを発表する場を設定し、相手意識をもって表現活動に臨むことができるようにする。	・予想を立てて、観察や実験を行い、結果と比べる機会をつくる。 ・観察カードや実験の記録をする場面では、分かったことを自分の言葉でまとめられるように仕向ける。 ・実験したことが、生活のどの場面とつながりがあるかを考えたり伝えたりする機会をつくる。	・既習内容や生活経験を根拠に予想や仮説を発想する機会をつくる。 ・実験、観察の結果を自然の事象や現象同士を関係づけたり、既習の知識や生活経験と関連付けたりする。 ・ICTや実物、模型を活用して、理解を深められるようにする。	・見とおしをもって学習できるよう目標を示し、学習計画を立てる。 ・日常生活での経験を基に考えた予想から解決するための方法を発想し実現させるという学習の流れを大切にする。 ・ICTや実物、模型を活用して、理解を深められるようにする。	・見とおしをもって学習できるよう目標を示し、学習計画を立てる。 ・日常生活での経験を基に考えた予想から解決するための方法を発想し実現させるという学習の流れを大切にする。 ・ICTや実物、模型を活用して、理解を深められるようにする。
社会(生活)			・実物を見たり、体験したりする活動を取り入れ、理解を深められるようにする。 ・資料や地図を読み、相違点に着目して、白地図や新聞にまとめる活動を取り入れる。	・身近なものから課題や疑問点を見つけながら学習計画を立て、主体的に課題を解決できるようにする。 ・見学したこと、調査したことを、新聞やタブレット等にまとめる機会をつくる。 ・繰り返し唱えたり、復習プリントを用いたりして、47都道府県をすべて覚えられるようにする。	・疑似体験を取り入れたり、その立場に立って討論をしたりするなどして、問題意識を持ちながら学ぶことができるようにする。 ・複数の資料や事象を比較、分類、関連付けて課題や疑問点を見つけ、解決に向けて計画的に学習をすすめる。 ・社会的事象と生活を関連付けて、考えをまとめる機会をつくる。	・疑似体験を取り入れたり、その立場に立って討論をしたりするなどして、問題意識を持ちながら学ぶことができるようにする。 ・複数の資料や事象を関連づけながら、課題解決に向けて計画的に学習をすすめる。 ・社会的事象と生活を関連付けて、考えをまとめる機会をつくる。
図工	・小さな発見やひらめきを大切に、意欲をもって臨める教材や授業展開を工夫する。 ・様々な材料・用具に触れさせ経験を積み重ねることで造形活動の楽しさを感じさせる。 ・友人と交流しながら主体的に取り組む姿勢を養い体全体で空間を生かせる「造形遊び」をバランスよく行う。		・造形活動の楽しさを味わいながら試行錯誤できる力を養えるように材料・用具・方法の幅を広げる等、題材を工夫する。 ・体全体で空間を生かしたり、友人と交流しながら工夫して造形できる活動をバランスよく取り入れる。 ・活動の中に思考し構想を練る時間や、友人と共有する鑑賞の場を設ける。		・自分のイメージを持ち形にするための表現活動を計画的に行う力を育む。 ・様々な視点から表現に生かし広がるよう、題材の導入や表現方法、配列を工夫する。 ・造形活動や鑑賞を通し、結果より、試行錯誤の過程を楽しむことを大切にする心を育て、一人ひとりの気持ちや思いを尊重する。	
音楽	・踊るなど全身の活動を通してリズムを感じ、楽しくめあてに向けてスモールステップで題材に取り組めるよう支援する。 ・音やリズムに関する遊びやクイズを通して、音楽の要素(リズム、速度、旋律、強弱、反復等)に興味がもてるようにする。 ・ゲームを用いて自分以外が奏でる音楽に関心を持ち、音楽の楽しさを広げる。 ・鍵盤ハーモニカや基本的な打楽器を使って、簡単な合奏を楽しむ。 ・ペアやグループで聞き合い、良いところを見つけ合う。		・意欲的に取り組めるよう、児童の興味に応じた題材を取り上げる。 ・リコーダーに楽しく取り組めるようアクティビティ的要素を取り入れる。 ・自分の音をよくきけるようにペア活動を取り入れたり1人ずつ演奏する時間をとり良いところを見つけ合う。 ・みんなの前で歌ったり、演奏したりする機会をつくり挑戦できたことを褒めて、自信をもたせる。		・アクティビティ要素を取り入れ、関心を深める。 ・意欲的に取り組めるよう、児童の興味に応じた題材を取り上げる。 ・どの子も「できた」という経験を増やせるように、個に応じて難易度を調整する。 ・発表に向けて知識を深め、見通しをもって努力したり挑戦したりする過程を価値づけて、やりきる力をつける。	
家庭					・自分の身の回りのことを、自力で取り組むことができるように、活動を段階的に取り入れていくようにする。 ・多くの人に支えられていることを実感し、感謝の気持ちをもつとともに、自分にできることを考える機会をつくる。 ・実践的・体験的な活動を通して、家庭内の仕事を実践する喜びや作品を完成させる達成感を味わえるようにする。	
体育	・「遊び」の中で、体を動かし、友達と仲良く活動することができるように配慮し、支援する。 ・いろいろな遊びや動きを通して、体を動かすことの楽しさを実感できるよう、場の設定や道具を工夫する。		・日々の体育の宿題や休み時間の外遊びを通して、体を動かす習慣や基礎体力の定着をはかり、体を動かす楽しみを知る。 ・体を動かす楽しさを感じながら、友だちと協力して運動できるよう場の設定やルールを工夫する。		・様々な動きを取り入れて、体をコントロールする力を身につけ、体を動かすことの楽しさを実感できるようにする。 ・友だちと協力して運動を楽しみ、お互いの技術を高め合えるよう、場の設定やグループ編成等を工夫する。	
外国語			・ICTや視覚教材を活用し、日本以外の国への興味・関心を持ち、外国に対しての理解を深められるよう働きかける。 ・歌やゲームを通し外国語でのコミュニケーションの基礎を身につける。 ・アルファベットへの興味をもたせる。	・ICTや視覚教材を活用し、日本以外の国への興味・関心を持ち、外国に対しての理解を深められるよう働きかける。 ・言語活動を通じ基礎的な単語や表現を楽しく学べる場を効果的にもうける。 ・アルファベットの音に興味をもたせる。	・外国語に親しみを感じられるよう、日常生活と結びついた題材を使い、簡単な表現を用いて自身の考えを発表する場を設ける。 ・アルファベットの文字と音に意識を持たせる。 ・ALTとのやり取りを通し、外国の文化や言葉の違いに興味をもたせる。	・「聞く・話す」活動を中心に、簡単な語句や基本的な表現を用い、自身の考えを発表する場を設ける。 ・アルファベットの文字を正しく書く活動を設け、中学英語へのスムーズな連携をはかる。 ・ALTとのやり取りなどで、既習表現を使って自分の考えを伝える経験をさせる。
道徳	・題材のできごとを、生活と結びつけて「自分ならどうする」か考え、友だちと交流する場を設定する。 ・ICTを活用して短時間で内容を理解できるようにし、考える時間を確保する。 ・ロールプレイを取り入れることで、相手の立場や気持ちを知りやすくする。		・題材をとおして、相手の気持ちを察したり、考えたりできるよう課題設定を工夫する。 ・日常生活に繋げて考えさせる。 ・相手の意見をよく聞き、自分の考えとの相違点を考え、さらに深められるよう、グループ学習を取り入れる。		・題材のできごとを客観的に捉え、相手の置かれている立場を考えたり、相手のためになる対処の方法を考えたりできるようグループ学習を取り入れる。 ・自己と他己の両方を大切にできるように様々な視点から考える機会を設ける。	
総合			・子どもたちの身近なことから課題を見つけ、見通しを持って学習に取り組む事で主体的に学習に取り組める手立てとする。 ・体験的活動、グループ学習、地域人材の活用等を活用した学習を設定する。		・児童発信でイベントを企画・立案をし、探求的学習に取り組ませる。 ・学習したことを発表する場を設定し、達成感が味わえるようにする。 ・友だちと互いの考えを認め合い、収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして考えるグループ活動を取り入れる。 ・各単元の学習をとおして、自分の将来について多角的に考える。	